事　業　報　告

令和７（2025）年度

社会福祉法人 福島いのちの電話

いのちの電話とは

☆　様々な問題を抱えながら孤独の中で、相談する人もなく不安な生活をし、精神的危機にある人たちが多数います。このような人たちが自殺の危機に追いこまれることがあります。

「死ぬほどつらい、誰かに聴いてほしい」と。

☆　ひとり悩み苦しんでいる人たちが、私たちのまわりには数多くいます。「いのちの電話」は、このような人たちに電話を通じて心を通わせ、よき隣人として相談相手となって励まし合うボランティア活動です。

☆　「いのちの電話」は1953年ロンドンで始められ、現在では世界の主な都市に設立されています。日本では1971年に東京に開設され、現在は全国に50のセンターが設置されています。約5,600人以上のボランティア相談員が年間約70数万件の相談を受けています。

☆　「いのちの電話」は、特定の宗教や思想・信条などに左右されず一人ひとりのいのちを大切にして、悩んでいる孤独な人たちのよき隣人として、また相談相手として、共に生きる輪を広げていく運動です。

☆　相談は、専門家による約１年半の研修を受け、認定されたボランティア相談員が担当しています。相談の秘密は厳守いたします。

目　次

1．はじめに …… 1
2．福島いのちの電話概況 …… 2
3．「福島いのちの電話」が受けた相談について …… 3
4．令和７(2025)年度事業報告 …… 7
5．令和７(2025)年度資金収支計算書・貸借対照表 ……11
6．令和８(2026)年度事業計画・資金収支予算書 ……13
7．組織図 ……16
8．役員名簿 ……16
9．令和７年度ご支援くださった方々 ……17
10．各種団体等からの補助金・助成金 ……27

はじめに

皆様には、日頃から福島いのちの電話の活動への深いご理解のもと、格別のご支援をいただき心より御礼申し上げます。お陰様をもちまして、福島いのちの電話は、365日無休の〈通常電話相談〉のほか、毎月10日の〈24時間自殺予防フリーダイヤル〉、そしていのちの電話「全国共通ナビダイヤル〉など相談事業をつつがなく実施することができました。これはひとえに、会員はじめ多くの皆様方のご協力の賜であり、改めて感謝申し上げます。

さて、令和７年における全国の自殺者数は19,188人で、令和６年より1,132人の減少、男女別では男性が前年から625人減少、女性は507人減少となりました。しかしながら小中高校生の自殺者数は538人であり、前年対比９人増加しており、統計のある1980（昭和55）年以降で最多となり､極めて憂慮される事態となっております。

福島県の状況をみると、令和５年390人、令和６年362人、そして令和７年339人と高止まりの状況で推移しており、いまだに危機的状況が続いております。

いのちの電話は、独りぼっちで悩み、その辛さに打ちひしがれている方にとっての「良き隣人」として、その苦しい心に寄り添い、心を聴くための電話相談でありますことから、この現実をしっかり受け止め、なお一層活動の充実に努めなければならないと痛切に感じさせられているところであります。

こうしたことから福島いのちの電話としては、“いのち”の大切さのさらなる広報に努めるとともに、若者に対する「ゲートキーパー養成講習」の取組も強化し、「誰も自殺に追い込まない社会」の実現に貢献して参る所存でありますので、引き続きのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

ここに、改めて皆様のご厚情に対し心より感謝を込め、令和７年度の事業活動等のご報告を申し上げます。

令和８年６月

社会福祉法人　福島いのちの電話

理事長　冊羽真一

福島いのちの電話概況

設　　立：平成９（1997）年９月１日
社福法人認可：平成15（2003）年８月25日
組　　織：評議員９名、理事８名、監事２名、特別顧問２名、
顧問８名、会員777名
電話相談員数：令和８年４月１日現在83名（委嘱者）
電話相談件数：令和７年１月～令和７年12月：9,614件
電話相談時間：【通常電話】：毎日10：00～22：00
毎月第３土曜日10：00～翌日８：00まで24時間
【日本いのちの電話連盟「自殺予防フリーダイヤル」】
毎月10日８：00～翌日８：00まで24時間
【日本いのちの電話連盟「全国ナビダイヤル」】
毎日10：00～22：00
相談受付回線：２回線
相談員養成：相談員養成研修第１課程・第２課程
継続研修：全相談員対象、全体研修（年２回）、グループ研修（年10回）、スーパーバイザーによる個別指導（年１回）
運　　営：年間予算約16,000千円、財源は主として会員等の会費、寄附金、県の補助金及び公的団体の助成金
全国組織：一般社団法人日本いのちの電話連盟
加盟50センター（令和８年３月現在）

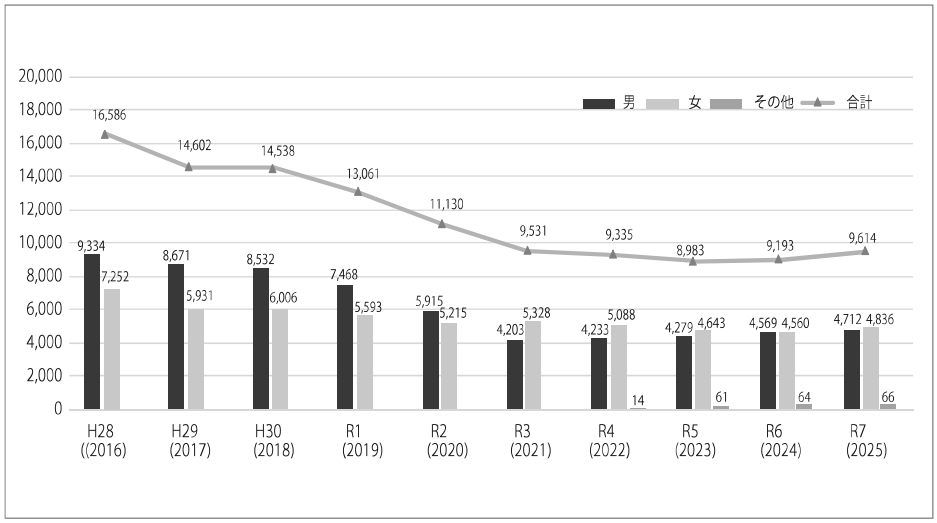
『福島いのちの電話』が受けた相談について

平成９年９月１日の開局以来、令和８年３月31日までに福島いのちの電話が受けた電話相談は378,448件で、１日当たりにすると36件ほどになります。しかし、令和３年、４年、５年と１万件を下回る事態となっていますが、これは新型コロナウイルスの蔓延による相談員周囲の事情や自身の体調不安などから、相談電話の担当が大きく制約され、ここ３年間、取り分け令和５年は、最多であった平成25年（18,194件＝50件／日）の半分以下の8,983件（25件／日）の対応となってしまいました。因みに、この間においての電話相談の状況は、従前とは異なっていることがデータとして現れています。

福島いのちの電話への電話相談は、開局当初から男性の割合が絶対的に高く、平成29年にあっては男性59％、女性41％という状況でした。ところが、コロナ禍によって一変した世相を反映したのか、令和３年は男性44％、女性56%と逆転し、令和４年、令和５年も男性より女性からの電話相談が多くなっており、令和６年は男性、女性ほぼ同数になりましたが、令和７年は再び女性の比率が男性の比率を上回りました。また、ＬＧＢＴＱと言われる性別が特定できない「その他」の件数が66件となり、これは令和５年から60数件で推移しています。

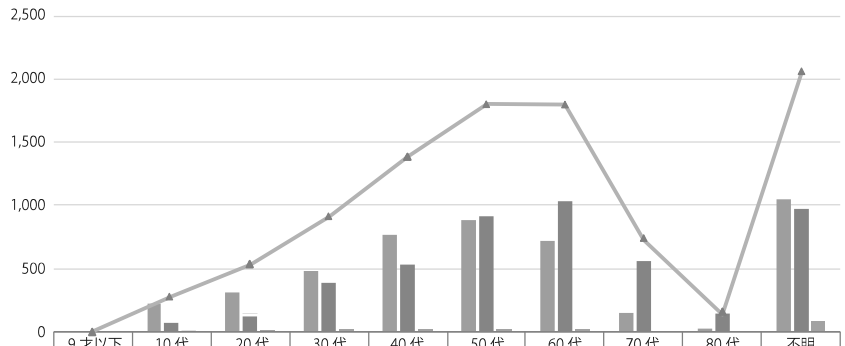
過去10年間の年別相談件数の推移

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R１年 (2019)	R２年 (2020)	R３年 (2021)	R４年 (2022)	R５年 (2023)	R６年 (2024)	R７年 (2025)
男	9,334	8,671	8,532	7,468	5,915	4,203	4,233	4,279	4,569	4,712
女	7,252	5,931	6,006	5,593	5,215	5,328	5,088	4,643	4,560	4,836
その他	0	0	0	0	0	0	14	61	64	66
合計	16,586	14,602	14,538	13,061	11,130	9,531	9,335	8,983	9,193	9,614



○相談の年代別状況

相談件数を年代別にみると、全体では50代が最も多い1,798人で、不明を除く全体の24.0％、次いで60代の1,785人で全体の23.9％、40代が1,335人で全体の17.8％となっており、この３世代で全体の約７割を占めています。なお、10代、20代の若い世代の電話相談の状況をみると、不明を除く全体の10.4％と昨年と同様な形になっています。



	９才以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明
男	0	242	326	496	759	889	727	142	12	1,119
女	0	29	180	377	568	906	1,055	594	156	971
その他	0	1	3	4	8	3	3	0	0	44
合計	0	272	509	877	1,335	1,798	1,785	736	168	2,134

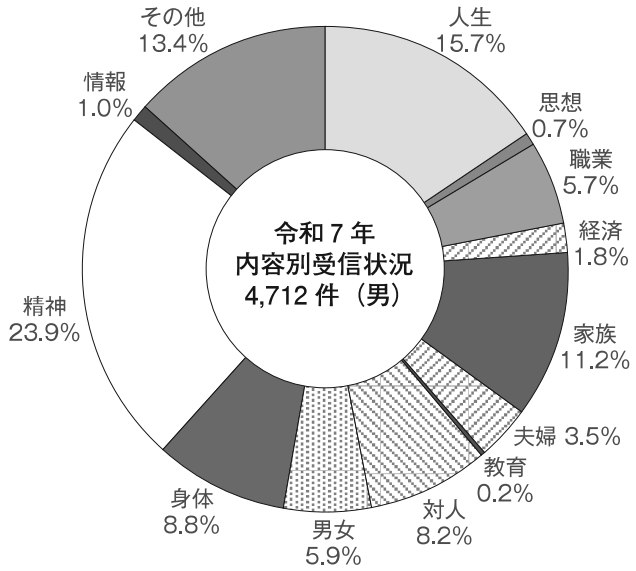
男　女　その他　合計

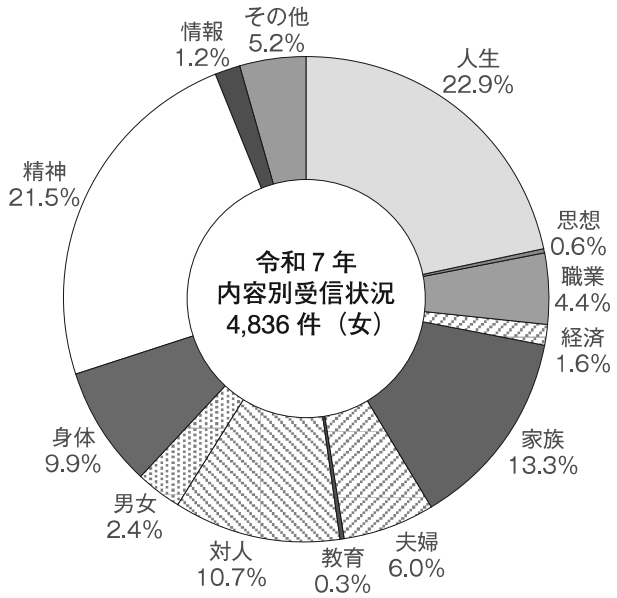
○相談の内容別状況

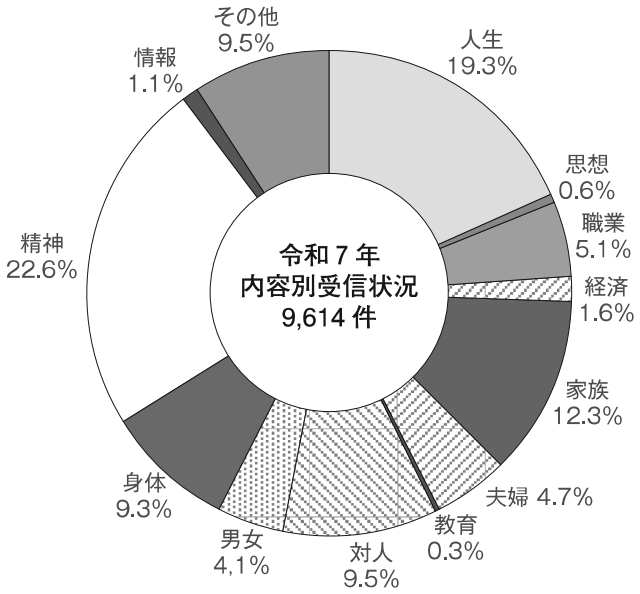
日本いのちの電話連盟の相談内容分類に基づく分類では、「その他」を除いた割合でみると、「精神」25.0％、「人生」21.3％、「家族」13.6％の順となり、この３つで相談内容の約６割の状況にあります。なお、令和の時代で「精神」の項目が「人生」を上回るようになったのは、令和元年以来４年振りの令和５年からで、令和２年からの３年間はコロナ蔓延という社会的不安から、「人生」の小項目となる＜孤独＞＜コロナ＞に関する相談が多くを占めていました。しかし、コロナの５類移行が影響したのか、令和５年以降は、再び「精神」の中の小項目＜うつ＞＜統合失調症＞＜自傷行為＞などの相談が多くみられるようになりました。

令和７年相談内容別受信状況

	人生	思想	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	合計
男	740	33	270	85	527	167	11	388	277	412	1,128	48	626	4,712
女	1,108	27	214	77	644	292	14	516	114	478	1,041	59	252	4,836
その他	2	0	4	0	10	0	0	4	2	4	3	0	37	66
合計	1,850	60	488	162	1,181	459	25	908	393	894	2,172	107	915	9,614


令和７年
内容別受信状況
4,712 件（男）
人生
15.7%
思想
0.7%
職業
5.7%
経済
1.8%
家族
11.2%
夫婦 3.5%
教育
0.2%
対人
8.2%
男女
5.9%
身体
8.8%
精神
23.9%
情報
1.0%
その他
13.4%


令和７年
内容別受信状況
4,836 件（女）
人生
22.9%
思想
0.6%
職業
4.4%
経済
1.6%
家族
13.3%
夫婦
6.0%
教育
0.3%
対人
10.7%
男女
2.4%
身体
9.9%
精神
21.5%
情報
1.2%
その他
5.2%

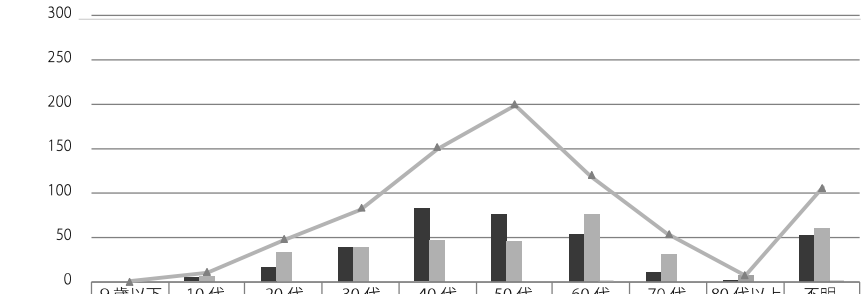

令和７年
内容別受信状況
9,614 件
人生
19.3%
思想
0.6%
職業
5.1%
経済
1.6%
家族
12.3%
夫婦 4.7%
教育
0.3%
対人
9.5%
男女
4,1%
身体
9.3%
精神
22.6%
情報
1.1%
その他
9.5%

○自殺を訴えた相談件数

電話相談の中では、「生きているのが辛い」「消えてしまいたい」「生きている意味が分からない」など、自殺傾向の強い言葉を聴くことも少なくありません。こうした自殺傾向のある相談件数は693件で、全体の7.2％で昨年より1.5ポイント減少しています。

○自殺傾向の年代別の状況

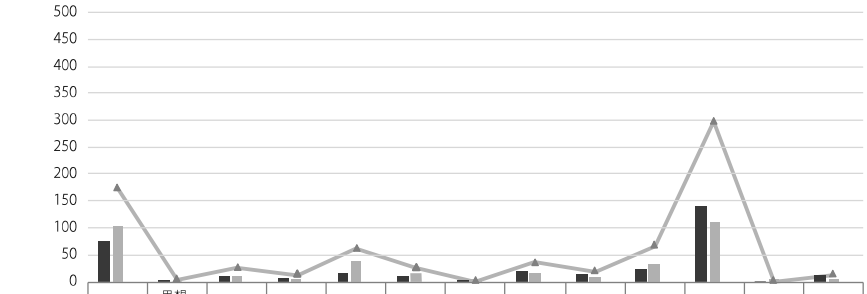
自殺傾向の年代別の電話は、不明を除いた全体でみると60代が22.8％、次いで40代が22.2％、そして50代の20.7％と続き、この３つの年代で全体の約７割となっています。年代別自殺者数において、福島県の電話相談では「自殺を訴えた」80代以上の人が、昨年の４人から10人と大幅な増加となっています。



	９歳以下	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上	不明
男	0	7	16	40	81	76	56	11	1	53
女	0	6	33	40	48	44	75	36	9	60
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
合計	0	13	49	80	129	120	132	47	10	113

○自殺傾向の内容別の状況

自殺傾向の電話を内容別にみると、「精神」が全体の35.9％、「人生」が25.3％となっており、この２つで全体の６割を超えています。中でも、「精神」にあっては＜うつ＞、「人生」にあっては＜孤独＞が大きな比重を占めています。



	人生	思想・人権	職業	経済	家庭	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他
男	73	4	12	11	17	12	1	20	13	25	139	1	13
女	102	2	13	6	39	17	1	14	10	34	109	2	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
合計	175	6	25	17	56	29	2	34	23	59	249	3	15

令和７(2025)年度事業報告

Ⅰ　主要事業の活動状況

１．電話相談

⑴通常電話相談（024－536－4343）

・受信時間（毎日）　10：00～22：00

・毎月第３土曜日　　10：00～翌日10：00までの24時間

⑵日本いのちの電話連盟「自殺予防フリーダイヤル」に参加
(0120－783－556)

・毎月10日～11日　８：00～翌日８：00までの24時間

⑶いのちの電話「全国共通ナビダイヤル」(0570－783－556)

・毎日10：00～22：00

※電話受信総件数（令和７年１月１日～令和７年12月31日）

○総件数9,614件（前年9,193件）

＜うち自殺傾向の件数：693件（前年807件）＞

２．相談員養成研修及び継続研修等

⑴第26期生養成研修　第２課程　10名

⑵第27期生養成研修　第１課程　４名

⑶相談員継続研修（相談員全員対象）

①グループ研修（継続研修）：グループを構成し月１回実施

②全体研修（春・秋の２回開催）

③個人スーパービジョン：全相談員年１回

３．相談員の認定

⑴継続委嘱相談員数　　73名（令和８年４月１日現在）

⑵新規認定相談員数（第26期生）10名

⑶実働相談員数　　83名（令和８年４月１日現在）

４．公開講座の開催

・春季公開講座（相談員募集説明会）

回	月　日	場　所	講　師
第１回	５月10日（土）	福島市市民センター	福島大学名誉教授 五十嵐　敦氏
第２回	５月17日（土）	郡山市総合福祉センター	横浜いのちの電話理事長 松橋秀之氏
第３回	５月31日（土）	ラコパふくしま	兵庫県こころのケアセンター 上席研究主幹、 福島県立医科大学特任准教授 瀬藤乃理子氏
第４回	６月７日（土）	郡山市労働福祉会館	福島大学教育推進機構 高等教育企画室准教授 前川直哉氏

5．財政基盤の確立

⑴会員寄附金（会費）収入 6,141,363円

		（前年度	6,786,483円）
個人会員	1,964,000円	（　同	1,761,000円）
法人会員	1,980,000円	（　同	2,193,000円）
賛助会員	2,197,363円	（　同	2,832,483円）

⑵一般寄附金収入　2,246,618円（前年度　1,883,770円）

⑶補助金・助成金等の実績

①福島県自殺対策緊急強化事業民間団体補助金　6,200千円

②福島県共同募金会配分金　300千円

6．広報活動の強化

⑴広報誌65号、66号の発行

⑵相談員募集広報の強化（新聞広報、インスタグラム広報）

⑶ホームページの充実

7．支部活動の推進

⑴郡山支部

①総会　令和７年７月19日　郡山市総合福祉センター

②公開講演会の開催 令和７年７月19日　郡山市総合福祉センター

講師　助産院　まんまる御母屋　相樂育美氏

演題　『いつだって、ひとりの人に救われた。
今度はわたしがそのひとりになる。』

③公開研修会の開催 令和７年10月25日　郡山市総合福祉センター

講師　郡山開成ライオンズクラブ　会長　鈴木祐介氏

演題　『奉仕の和を広げよう～地域と世界をつなぐ絆～』

⑵喜多方支部

①総会　令和７年６月９日　喜多方市総合福祉センター

②講話の開催　令和７年６月９日　喜多方市総合福祉センター

講師　福島いのちの電話　理事長　丹羽真一

演題　『こころの病の治療と聴くということ－傾聴の意味』

8．ゲートキーパー養成事業

⑴ ゲートキーパー養成講習

・令和７年度ゲートキーパー養成講習
受講者総数167名（前年度受講者数569名）

・伊達市20名、田村市22名、只見町20名、二本松市20名

・ソーシャルデザインワークス15名、福島県精神保健福祉士会40名、会津小さな風の会30名

⑵若者を対象としたゲートキーパー養成の推進
福島学院大学学生との懇話会の開催

⑶活動用チラシ、冊子の作成

若者向け講習案内チラシ3,000枚、養成講習用冊子500冊を作成

Ⅱ　役員会、各委員会等の開催

１．理事会、評議員会

回	期　　日	理　　事　　会	評　　議　　員　　会
第１回	令和７年 ６月14日	議　　案 ①令和６年度補正予算専決処分の承認について ②令和６年度事業報告・収支決算（案）について ③令和７年度事業計画の変更・収支予算（案）について ④任期満了に伴う新役員（理事・監事）の推薦（案）について ⑤令和７年度第１回評議員会の招集について 報告事項 ①自殺予防いのちの電話168時間ＦＤチャレンジ2025参加について ②「震災支援予約制ダイヤル」について ③令和７年度共同募金事業変更について ④ＬＩＮＥ広報による相談員募集広報の強化について	
	令和７年 ６月23日		議　　案 ①令和６年度補正予算専決処分の承認について ②令和６年度事業報告・収支決算（案）について ③令和７年度事業計画の変更・収支予算（案）について ④任期満了に伴う新役員（理事・監事）の推薦について 報告事項 ①自殺予防いのちの電話168時間FDチャレンジ2025参加について ②「震災支援予約制ダイヤル」について ③令和７年度共同募金事業変更について ④ＬＩＮＥ広報による相談員募集広報の強化について
第２回	令和８年 ３月10日	議　　案 ①令和８年度事業計画（案）・予算（案）について ②令和７年度第２回評議員会の開催について ③事務局長の選任について 報告事項 ①令和８年度春季公開講座について ②若者向けゲートキーパー小冊子の作成について ③インスタグラムによる電話相談、相談員募集等の広報について	

第２回	令和８年 ３月18日		議　　案 ①令和８年度事業計画（案）について ②令和８年度予算（案）について 報告事項 ①令和８年度春季公開講座について ②若者向けゲートキーパー小冊子の作成について ③インスタグラムによる電話相談、相談員募集等の広報について

２．各委員会等の活動及び各種会議の開催

⑴運営委員会　　おおむね隔月ごとに年７回開催した。

⑵各委員会

広報委員会、研修委員会、相談委員会、調査研究委員会、公開講座実行委員会を定期的に開催した。

令和７(2025)年度資金収支計算書

（令和７年４月１日～令和８年３月31日）

〈収入の部〉　（単位：円）

科　　目	決算額(円)	摘　　要
会員寄附金	6,141,363	個人維持会員、団体維持会員、賛助会員
一般寄附金	2,246,618	県民共済、篤志家等からの寄附金
福島県補助金	6,200,000	福島県自殺対策緊急強化事業補助金
共同募金配分金	300,000	共同募金配分金
負担金	430,000	受講生負担金（26期10名、27期４名）
受取利息配当金	19,100	預金利息
その他雑収入	577	
合　計	15,337,658	

〈支出の部〉　（単位：円）

科　　目	決算額(円)	摘　　要
事業費	6,934,160	相談員養成・継続研修、ゲートキーパー講習
事務費	4,410,920	賃借料、通信運搬費、会議費、連盟負担金、事務諸経費等
人件費	5,322,616	非常勤７名、事務補助パート３名
当期資金収支差	△ 1,330,038	
合　計	15,337,658	

令和７(2025)年度貸借対照表

（令和８年３月31日現在）

（単位：円）

資産の部		負債の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
流動資産	2,928,610	流動負債	2,551,042
現金預金	1,981,934	未払費用	2,551,042
未収金	580,549	固定負債	0
立替金	189,162	負債の部合計	2,551,042
前払費用	176,965	純資産の部	
固定資産	11,494,462	基本金	10,000,000
基本財産	10,000,000	国庫補助金等特別積立金	1,175,956
定期預金	10,000,000	その他の積立金	0
その他の固定資産	1,494,462	次期繰越活動増減差額	696,074
建物付属設備	1,169,627	（うち当期活動増減差額）	△ 1,412,288
器具及び備品	11,289		
権利	313,545		
ソフトウェア	1	純資産の部合計	11,872,030
資産の部合計	14,423,072	負債及び純資産の部合計	14,423,072

監 査 報 告 書

令和８年５月29日

社会福祉法人福島いのちの電話
　理事長　　丹　羽　真　一　殿

監　事　遠藤俊博

監　事　大竹　隆

私たち監事は、令和７年４月１日から令和８年３月31日までの令和７年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

１　監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその付属説明書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

２　監査の結果

⑴　事業報告等の監査結果

①　事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

②　理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

⑵　計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

令和８(2026)年度事業計画

１．事業計画策定にあたっての基本方針

厚生労働省によると、令和７(2025)年１年間に全国で自殺した人は１万9,097人（暫定値）で、令和６(2024)年に比べると1223人減少し、統計を取り始めた昭和53(1978)年以来初めて２万人を下回り、最も少なくなった。

一方、小中高生の自殺者は532人と前年比３人増で、２年連続で最多となっており、国はこども家庭庁が中心となって対策を強化したいとしている。

こうした中、いのちの電話は、情報ツールの多様化等を踏まえつつ、電話相談を中心として、悩みや苦しみを抱える人々と向き合う活動を続けており、自殺予防における役割はますます重要となっている。

こうした情勢を踏まえ、福島いのちの電話における令和８(2026)年度事業計画においては、「相談活動の充実強化」、「財政基盤の充実」、「相談環境の整備」、「広報活動の強化」、「ゲートキーパー養成」を重点事業として取り組む。

また、令和９(2027)年度に福島いのちの電話開設30年を迎えることから、30周年記念事業の企画立案を図る。

２．事業計画の概要

⑴　相談活動の充実強化

ア．通常電話相談の実施（全国共通ナビダイヤル参加を含む）
　年間毎日10：00～22：00
　(毎月第３土曜日は10：00～翌日10：00)

イ．日本いのちの電話連盟が呼びかける「全国自殺予防フリーダイヤル」への参加毎月10日　８：00～翌日８：00

ウ．相談員の確保
　・相談員養成研修第27期生第２課程の実施
　・相談員養成研修第28期生第１課程の実施

エ．相談員継続研修の充実
　・グループ研修（各相談員、年10回)
　・個人スーパービジョン（同、年１回)
　・全体研修（同、年２回)

オ．研修リーダー養成及びスキルアップ研修
　・第５期リーダー養成特別研修前期課程＜新規事業＞
　・特別研修継続研修（年２回)

カ．外部研修会への参加
　・日本いのちの電話相談員全国研修会
　・日本いのちの電話連盟主催相談員研修（オンライン）
　・日本いのちの電話連盟主催研修担当者研修（オンライン研修を含む)
　・日本電話相談学会（オンライン開催)
　・日本自殺予防学会

⑵　ゲートキーパー養成事業の強化

ア．市町村、民間団体等が主催するゲートキーパー養成講習会への講師派遣

イ．若者を対象としたゲートキーパー養成の推進

⑶　日本いのちの電話連盟が行うインターネット相談事業への参加

ア．インターネット相談員養成研修への参加

イ．日本いのちの電話連盟インターネットサイトにおけるメール相談への参加＜新規事業＞

⑷　相談員ケアの充実等

ア．ケアのためのスーパービジョンの活用促進

イ．ケアハンドブックの活用等

ウ．継続研修グループ等を通じた日常的な相談員交流の充実・強化

エ．対応困難な電話に関する調査研究及び相談員、事務局員を対象とした研修会開催＜新規事業＞

⑸　組織体制の整備充実

ア．運営委員会及び各事業委員会間の連携強化

イ．郡山分室及びいわきサテライトとの連携強化

ウ．支部活動の充実と連携強化

エ．危機的電話の受信や災害発生時等における緊急時連絡体制の整備

⑹　財政基盤の充実

ア．福島いのちの電話30周年を目指した資金ボランティア会員の拡大及び大口寄附金の確保

イ．福島県等公的補助金助成金の確保・充実

ウ．インターネットやSNSを通じた資金調達等新たな資金確保対策の検討＜新規事業＞

⑺　広報活動の強化

ア．県民を対象とした公開講座等の開催

・春季公開講座（４回）

・若者を中心とした「いのちの大切さを考えるフォーラム」（仮称）の開催＜新規事業＞

イ．広報誌の発行（年２回）

ウ．インターネット・ホームページの充実・強化と定期的メンテナンス

エ．SNSによる広報

オ．新聞等マスコミ広告による広報

令和８(2026)年度資金収支予算書

（令和８年４月１日～令和９年３月31日）

＜収入の部＞　（単位：円）

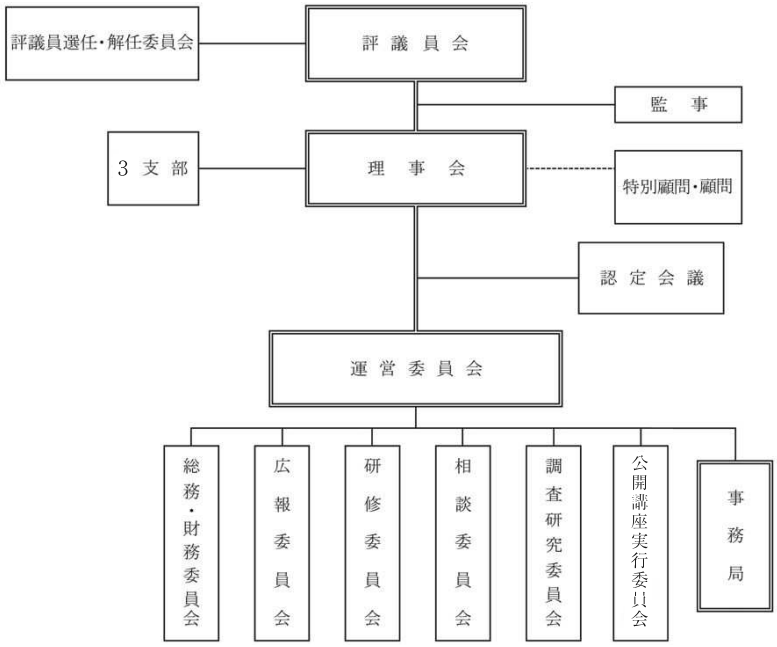
科　目	金　額	内　訳
会員寄附金	6,560,000	維持会員(個人･団体)、賛助会員(個人･団体)
一般寄附金	2,700,000	
福島県補助金	6,200,000	自殺対策補助金4,200千円、コロナ対策補助金4,000千円
共同募金会	300,000	シンポジウム開催費
負担金	600,000	27期（４名）、28期（20名）
雑収入	5,000	
合　計	16,365,000	

＜支出の部＞　（単位：円）

科　目	金　額	内　訳
事業費	6,650,000	養成・継続研修、ゲートキーパー養成講習会、春季公開講座
事務費	3,715,000	賃借料、会議費、事業報告書
人件費	6,000,000	非常勤４名、事務補助３名
合　計	16,365,000	

社会福祉法人福島いのちの電話組織図

（令和８年７月１日）



役員名簿（令和８年７月１日現在）

●特別顧問

遠藤　道雄　　茂田 士郎

●顧　問

遠藤　忠一　　玄永　牧子　　甚野源次郎　　濱田千恵子
星野　仁彦　　望木　昌彦　　山川　　彬　　横山　光衛

★評議員会

内山　清一　　加藤　隆史　　神戸　信行　　紺野　　学
齋藤　記子　　佐藤　　淳　　佐藤　倫子　　髙野　武彦
村田　純子

☆理事長

丹羽　真一

☆副理事長

柳沼　純子

☆業務執行理事

遠藤　智子

☆理　事

遠藤　栄子　　今野　孝敏　　三瓶　弘次　　堀切　伸一
村上　敦浩

◎監　事

遠藤　俊博　　大竹　隆

〇事務局長

大竹　伸明

令和７年度ご支援くださった方々

福島いのちの電話の運営のために、次の方々にご支援いただきました。誠にありがとうございました。これからもご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。（敬称略、順不同）

１．個人維持会員

藍原　裕子	青木　照大	秋元登志夫	穴澤　正行
阿部　新一	阿部　裕光	阿部裕美子	阿邉みどり
阿部　倫子	有馬　美代	飯塚　　卓	五十嵐節子
石井　　浩	石井　幹子	石下　恭子	板垣　　茂
板橋　俊子	伊藤　典和	伊藤美知子	上嶋　明彦
内山　清一	内山三津男	海野志ん子	江河　　佑
遠藤　俊博	遠藤　道雄	遠藤　智子	大出　隆秀
大竹　　隆	大和田清司	岡本　恒夫	小口　潔子
金子勢津子	亀岡　偉民	香山　雪彦	菅家　俊一
菅家ミキ子	菅家八栄子	菅野　民江	菅野　建二
菅野　藤江	菅野　光枝	菅野　光代	菊嶋　健一
菊田　則雄	木村　勝美	木村　福一	黒江　律子
玄永　牧子	三好　正人	高蔵寺	神戸　信行
古関　君子	小林　健夫	小林　直樹	小堀新一郎
近藤　　哲	坂井　絹代	阪上　通明	佐藤　温史
佐藤　綾子	佐藤賀津雄	佐藤　正子	佐藤　正美
佐藤真智子	佐藤　倫子	佐藤　政隆	塩見　元彦
志賀　美恵	宍戸　宏行	渋谷　順子	白岩　康夫
鈴木修一郎	鈴木　忠一	関口　祐子	髙野　武彦
高橋　年光	唯木トシ子	立花　スエ	田中　照子
玉木　仁彦	丹治千代子	東原　康文	寺島　長司
冨塚美貴子	中野　真理	中村　礼子	西山　江美
丹羽　真一	野地　啓子	芳賀　　裕	萩原久美子
長谷川　望	長谷川祐一	羽田　房男	半澤　トシ
平岩　幸一	廣川美智子	堀田　敬之	洞口　英子
堀切　伸一	本田　恵一	まちの薬局扇町店　町野　紳	
松谷　彰夫	松本　　純	馬目　重信	真山　祐一
水原美千枝	宮川えみ子	毛利　靖子	望木　昌彦
森　　綾子	森藤美津子	柳内　　務	八島　恭子
安田　武吉	山﨑誠一郎	遊佐　久男	吉澤萬里子
吉田キクエ	吉田　嘉子	吉成　　毅	渡部　啓子

渡部　純夫　　渡邊　哲也　　亘理　正明

2．団体維持会員

明るい社会づくり運動小名浜常磐地区協議会　事務局長　山添公重
明るい社会づくり運動郡山地区協議会　会長代行　佐藤政喜
明るい社会づくり勿来地区協議会　内田　一久
明るい社会づくり運動　福島・伊達・二本松地区協議会
一般社団法人福島県医師会
一般社団法人福島県自動車整備振興会
一般社団法人福島県建設業協会
一般財団法人太田綜合病院
一般財団法人大原記念財団
一般財団法人桜ヶ丘病院
一般財団法人竹田健康財団　理事長　竹田　　秀
一般財団法人福島県自動車会議所
一般財団法人ふくしま市町村支援機構　理事長　遠藤　雄幸
医療法人板倉病院　院長　　海野　幸浩
医療法人杏泉堂　理事長　　本間　一男
医療法人西口クリニック婦人科　理事長　本多　静香
医療法人済精会　長橋病院
岩代ライオンズクラブ　会長　大内　英克
株式会社エスケーコーポレーション
NTT 東日本福島支店
株式会社吾妻山麓醸造所　代表取締役　牧野　修治
株式会社サンライト
株式会社矢吹自動車教習所
株式会社ウインスリーひかり
株式会社環境分析研究所
株式会社サン・ベンディング福島　代表取締役　千葉　政行
株式会社ジー・アイ・ピー
株式会社 zero　one
株式会社民報アド
株式会社総合コンサルタンツ　代表取締役　最上　　諭
株式会社同仁社
株式会社東邦銀行
株式会社日新土建
株式会社ハッピーケア　代表取締役　海老根　潤
株式会社福島銀行

株式会社福島民報社　代表取締役社長　芳見　弘一
株式会社ボーダレス総合計画事務所　代表取締役　鈴木　勇人
株式会社松崎
株式会社マルト商事　代表取締役　安島　　浩
株式会社三宅新聞店　代表取締役　三宅　一秀
株式会社山川印刷所　代表取締役　立花　志明
鎌田クリニック　院長　板垣　　茂
北関東空調工業株式会社
きらり健康生活協同組合
公益社団法人福島県看護協会
公益社団法人福島県トラック協会
コバックス株式会社
佐藤工業株式会社
株式会社 CIA
社会福祉法人育成会　理事長　佐藤みさ江
社会福祉法人　なごみ
宗教法人　安洞院
網代智明
弁護士法人　鈴木芳喜法律事務所
株式会社平中央自動車学校
東信建設株式会社　代表取締役　佐久間政文
東北電力株式会社福島支店
東北労働金庫福島県本部
日本キリスト教会福島伝道所
ひろやまメンタルクリニック　廣山　祐治
富久泉工業株式会社
福島稲荷神社　宮司　丹治　正博
福島県市長会
福島県信用保証協会
一般社団法人福島県精神科病院協会　会長　菅野　智行
福島県町村会　星　　學
福島国際交流事業共同組合　代表理事　佐藤　雄亮
福島市仏教会
福島信用金庫
福島テレビ株式会社　代表取締役社長　橋本　　泉
一般財団法人ふくしま未来研究会
福島民友新聞株式会社
福島ロータリークラブ

株式会社ぶらっと Web 放送
保原自動車学校
ほりメンタルクリニック　院長　堀　　有伸
待井内科糖尿病内科クリニック　理事長　待井　典剛
医療法人道済会　みちや内科胃腸科
立正佼成会茨城教会
社会福祉法人緑風福祉会

3．賛助会員（個人）

青木　英子	荒　　和雄	安斎　孝意	安齋　睦男
五十嵐千恵	遠藤　忠一	大木内科医院	大木　　厚
金澤　博信	栗林　正樹	熊代　　永	佐藤　和子
柴山　邦雄	鈴木　美江	田中　文博	玉木トヨ子
丹野　一男	中村　基行	羽金　淑江	引地　知子
引地　正樹	幕田　郁子	松本　道子	安海　好昭
陽田　正夫	吉田　英策	吉田　和代	若林　　愛
渡辺とくい	森　　綾子		

4．賛助会員（団体）

医療法人社団慈泉会　南湖こころのクリニック
医療法人社団石福会　四倉病院
医療法人落合会　東北病院
医療法人敬仁会　なかのクリニック
磐城通運株式会社
株式会社原町中央自動車教習所
株式会社大丸工務店
株式会社テレビユー福島
株式会社トヨタレンタリース福島
小林土木株式会社
社会福祉法人厚慈会
セブン代行株式会社　代表取締役　宗形三彩史
特定非営利活動法人　エルタ
ノートルダム修道院
福島ヤクルト販売株式会社
堀江工業株式会社
有限会社みどり薬局　代表取締役　松本　伸丈

5．喜多方支部・個人維持会員

穴澤　高子	荒川　節子	荒川　裕子	五十嵐　聡
五十嵐知枝	五十嵐裕美	岩田　綾子	上野　光子
梅宮　美喜	遠藤　栄子	遠藤　貴子	遠藤　英昭
遠藤　昌幸	遠藤美智子	大関さち子	大竹小百合
大原　尚子	大森志津子	小椋　和洋	風間　俊恵
神蔵　良太	唐橋　和美	川口　理香	草刈　牧子
小荒井　武	小松　祐子	齋藤マサ子	齋藤　祐子
相良　静雄	佐藤　　恵	佐藤　美穂	佐野　圭一
鈴木ちひろ	鈴木　敏憲	鈴木　優子	鈴木　幸奈
須田　栄晋	須田　恭広	須藤　茂樹	須藤　俊弘
清野　弥生	清野　洋一	関本　克聡	外島千鶴子
高橋　美幸	立川　貴之	田中　幸悦	棚木　加奈
東條千登勢	東條　孝雄	豊子　光代	生江　恭子
西　　浩美	橋谷田真由美	花見　博文	原　　倫子
坂内　孝夫	平田　広美	藤田　　大	桝川　　恵
松尾　勝貴	松下　智明	松本　恵美	真部　賢二
三橋　亜美	皆川　共子	武藤　顯夫	武藤　陽子
武藤喜代次	武藤　良太	室井麻富花	物江　昌子
山内智恵子	山崎三枝子	横山　憲一	吉川　　昭
若林　大蔵	渡部　敬二	渡部　孝一	渡邊　幸子
渡部　忠寛	渡部みい子	伊勢亀幸男	一ノ瀬知恵
遠藤　　寛	遠藤　次男	遠藤　　実	笠間　敬子
広井トヨ子	佐々木恵津子	佐藤　秀夫	佐藤　有子
三橋　彦也	小林　弘子	上野　啓介	青山　榮子
相良　由紀	村澤　健一	大塚　香子	大塚　節子
大野　京子	田部　芳子	田部　芳枝	渡部ミツイ
渡辺　慶子	渡邊　俊明	藤澤　廣子	二瓶　藤一
矢部　　薫	古川　英雄		

6．喜多方支部・団体維持会員

会津喜多方商工会議所
会津よつば農業協同組合
明るい社会づくり運動喜多方地区協議会
社団法人喜多方医師会
NPO 法人喜多方市民活動サポートネットワーク
喜多方市第二地区民生児童委員協議会
喜多方市熱塩加納町民生児童委員協議会

喜多方市塩川町民生児童委員協議会
喜多方市第一地区民生児童委員協議会
喜多方市松の木女性コーラス
喜多方市役所　課長会
喜多方市役所　部長会
喜多方市山都町民生児童委員協議会
喜多方グリーンホテル
喜多方市岩月町民生児童委員協議会
喜多方市上三宮町民生児童委員協議会
喜多方市熊倉町民生児童委員協議会
喜多方市慶徳町民生児童委員協議会
喜多方市関柴町民生児童委員協議会
喜多方市豊川町民生児童委員協議会
喜多方市ボランティア連絡協議会
喜多方市松山町民生児童委員協議会
喜多方市高郷町民生児童委員協議会
国際ソロプチミスト喜多方
大建工業有限会社

7．喜多方支部・賛助会員

富山　雅子　　鈴木　貴子　　遠藤　敏子　　川口　良平
佐藤　富子　　物江　昌子　　北見美代子　　平田真由美
野口　則子

8．南相馬支部・個人維持会員

朝倉美智子　　伊賀　　淳　　石垣　清子　　石橋　三男
金澤　幸夫　　佐藤　一男　　佐藤　清彦　　高根　富三
中尾　誠利　　番場三和子　　平戸　隆子
ほりメンタルクリニック　堀　　有伸　　湊　　清一
村田　純子　　村田　秀人　　門馬　孝子　　渡部　喜照

9．南相馬支部・団体維持会員

一般社団法人原町青年会議所　理事長　佐藤　拓也
財団法人金森和心会　雲雀ヶ丘病院
関場建設株式会社　代表取締役社長　関場　直隆
東北建設株式会社
特別養護老人ホーム福寿園
株式会社ナプロアース

ニッツーレンタリース株式会社　代表取締役　日下　匡美
日本オートマチックマシン株式会社原町事業所
原町建設機械株式会社
原町赤十字奉仕団
株式会社原町日通自動車修理工場
NPO法人ほっと悠
丸三製紙株式会社
南相馬中央医院

10. 南相馬支部・賛助会員

佐藤 孝子

11. 郡山支部・個人維持会員

青木　淑子	青山　玲子	穴澤　洋美	安部　寿美
阿部　一美	荒井　祐子	安斎　春江	安瀬　早紀
安瀬ちえ子	飯島　直子	飯村　亜以	伊佐　香苗
石田　宏寿	井田川春子	伊藤　典子	井上貴代江
井上　好恵	猪俣　浩一	猪俣美和子	今川　了一
岩崎　敦子	岩﨑　恵子	岩瀬左代子	磐瀬　祐子
上野　和恵	上野　春菜	藤沢　　愛	薄井真理子
歌川　恵子	浦山　由理	江間久美子	遠藤　絵美
遠藤美佐子	遠藤めぐみ	大久保えく子	

太田メンタルクリニック　院長　太田聖一　　大槻　郁美

大槻　裕子	大戸　康子	大藤しのぶ	大向　昭子
大桃たか子	大森絵里香	大森みゆき	大山　和子
岡部　秀子	小椋沙由理	小山内恵合	押山　文子
小野　喜世	面川ハル子	影山　浩美	影山　　貢
景山かおり	影山美保子	加藤まり子	加納　里美
鎌田　真理	神山　悦子	菅家美和子	菅田伊津美
菅野未希子	菅野美由起	菊地かおり	菊地　聡恵
岸波　郁子	城戸　恵子	木本沙緒里	草野智恵子
國定　俊彦	久保木優佳	熊坂　忠則	熊田　純奈
黒沢　秀子	小柴　尚子	後藤美津子	古宮　功子
近藤まち子	齋藤　篤子	齋藤　榮子	齋藤のぶ子
齋藤　真子	坂本　紅美	坂本美佳子	相良　淳子
佐川　　翔	佐久間香苗	佐々木泰道	郷　　智子
佐藤　香織	佐藤賀津雄	佐藤　恵子	佐藤智佳子
佐藤　豊子	佐藤マチ子	佐藤　美枝	佐藤美恵子

佐藤　佳子　　佐藤　留美　　佐藤　美幸　　宍戸　久昌
品川　萬里　　白戸亀代子　　過足　理香　　鈴木　利光
鈴木奈緒美　　鈴木　待子　　鈴木由美子　　関　由美子
添田　啓子　　田井さやか　　平　　信二　　高橋　幸子
高橋　絵美　　竹林　和子　　田崎　優香　　田中　澄子
田邊　　実　　田母神光男　　田母神章子　　土屋　香純
富永　國比古・久美子　　富山美津江　　中山　美幸
名知　幸恵　　七海　憲枝　　生田目早苗　　新国　　茂
庭山　知子　　布川　早苗　　根本登志子　　根本由美子
野口美佐子　　芳賀　信子　　芳賀　善正　　橋本　早美
橋本　由美　　橋本　　望　　長谷川美香　　秦　　豊子
馬場　智恵　　半澤　　和　　飛田　　操　　冬室加代子
古川　熙子　　蛇石　郁子　　星　　弘志　　星　美穂子
増子　明香　　増子　松代　　松崎佳小里　　水野　淳子
宗形　明子　　柳沼　純子　　箭内　喜訓　　山口　信雄
横山ユキ子　　吉田　恵子　　吉田　朋子　　吉成　妙子
吉野真知子　　渡辺　佳子　　渡邉アサ子　　渡邉　一美
渡辺　康平　　渡辺　順子　　渡邉　空翔　　渡辺　真紀
渡部　裕子

12.　郡山支部・団体維持会員

明るい社会づくり運動郡山地区協議会　会長代行　佐藤　政喜
医療法人慈繁会
株式会社エフコム　取締役会長　酒井　良信
株式会社西部開発　代表取締役　丹治　　洋
公益財団法人金森和心会　針生ヶ丘病院
公益財団法人星総合病院　副理事長　森　　東
公益財団法人星総合病院　病院長　渡辺　直彦
郡山開成ライオンズクラブ
国際ビジネス公務員大学校
佐藤燃料株式会社
社会福祉法人共生福祉会
日専連郡山女性部会
プリンシプル株式会社　代表取締役社長　鈴木　一裕

13.　郡山支部・賛助会員

鎌田　真理　　熊谷　泰人　　車谷　栄子　　小齋　恭子
佐々木敏彦　　田邊　　実　　二瓶　克雄

14. 郡山支部・団体賛助会員

医療法人浅木整形外科医院　理事長　浅木　成樹
公益財団法人星総合病院　副理事長　森　　東
結いの里竹栁庵

15. 歳末特別寄付

会田美智男　　アイル薬局住吉店　赤津　雅美
青木　英子　　浅野桂太郎　　阿部　成治　　安齋　睦男
石井　幹子　　網田　雄治　　石下　恭子　　伊藤　典和
伊藤美知子　　上嶋　明彦　　上杉　洋子　　内田　一久
内山　清一　　海野志ん子　　江河　　佑　　遠藤　俊博
遠藤　道雄　　遠藤　智子　　大石　邦子
大木内科医院　大木　　厚
安達ライオンズクラブ　会長　安田　利夫
医療法人社団慈泉会　南湖こころのクリニック
石橋建設工業株式会社　代表取締役　石橋　英雄
一般社団法人福島県医師会
一般財団法人福島県自動車会議所
一般財団法人ふくしま市町村支援機構　理事長　遠藤　雄幸
医療法人社団石福会四倉病院
医療法人鎌田クリニック　理事長　板垣　　茂
医療法人慈心会村上病院
医療法人落合会東北病院
株式会社サンライト
株式会社矢吹自動車教習所
大和田清司　　岡本　恒夫　　小口　潔子
明るい社会づくり運動郡山地区協議会　会長代行　佐藤　政喜
かねこ内科・外科クリニック
金澤　博信　　金子勢津子
株式会社マルト商事　代表取締役　安島　　浩
株式会社環境分析研究所
神山　悦子
株式会社サン・ベンディング福島　代表取締役　千葉　政行
株式会社原町自動車教習所
株式会社原町中央自動車教習所
株式会社総合コンサルタンツ　代表取締役　最上　　諭
亀岡　偉民
株式会社大丸工務店

株式会社トヨタレンタリース福島
香山　雪彦　　菅野　民江
株式会社日新土建
株式会社ハッピーケア　代表取締役　海老根　潤
株式会社三宅新聞店　代表取締役　三宅　一秀
北関東空調工業株式会社
菅野　建二　　上野　啓介　　菅野　光代　　菊嶋　健一
熊川由紀子　　黒江　律子　　桑名　俊光　　玄永　牧子
高蔵寺　　朝倉美智子　　伊賀　　淳　　石垣　清子
円谷　仁子　　太田　光秋　　安斎　春江　　金澤　幸夫
丸三製紙株式会社　　佐藤　一男　　島田まゆみ
中尾　誠利　　小林土木株式会社　　長岡　利幸
神戸　信行　　佐藤工業株式会社　　平戸　隆子
湊　　清一　　古関　君子　　村上　勇一　　村田　純子
飯島　直子　　石田　宏寿　　猪俣美和子　　大桃たか子
岡部　秀子　　近藤　　哲　　阪上　通明　　佐藤　温史
医療法人社団茶畑会相馬中央病院
佐藤　和子　　佐藤富美子　　角田　文代　　國定　俊彦
車谷　栄子　　齋藤　榮子　　斎藤千代子　　佐藤真智子
齋藤のぶ子
有限会社ネットワーク調剤オレンジ薬局湯本南店
佐々木敏彦　　佐々木泰道　　佐藤百合子　　佐藤　政隆
佐藤　正子　　よしじまクリニック　吉島　哲也
佐藤　佳子　　佐野　勝俊　　白戸亀代子　　鈴木　惠子
添田　啓子　　社会福祉法人厚慈会
社会福祉法人なごみ　　田母神章子　　三瓶　弘次
佐藤燃料株式会社
いわき平中央ロータリークラブ
塩見　元彦　　志賀　美恵　　宍戸　悠子　　宍戸　幸雄
柴田　裕子　　渋谷　順子　　鈴木修一郎　　関口　祐子
髙野　武彦　　高橋　年光　　唯木トシ子　　田中　文博
谷口　孝一　　学校法人聖光学院　　玉木　仁彦
生田目早苗　　東北労働金庫福島県本部　　丹治千代子
東原　康文　　永井　久雄
医療法人将文会どうまえクリニック　理事長　鹿野目裕文
特定非営利活動法人エルタ　　医療法人済精会長橋病院
中村　礼子　　布川　早苗　　村田　秀人
日本基督教団福島教会　　根本ヒロ子

日本基督教団福島伊達教会　西山　江美
富久泉工業株式会社
福島稲荷神社　宮司　丹治　正博　丹羽　真一
長谷川祐一
福島民友新聞株式会社　福島ヤクルト販売株式会社
羽金　淑江　廣川美智子　芳賀　信子　堀切　伸一
まちの薬局扇町店　町野　紳　松本　純
松本　道子　福島ＹＷＣＡ
船引ロータリークラブ　馬目　重信　真山　祐一
一般財団法人太田総合病院看護部　宮本しづえ
芳賀　善正　半澤　和　村越　栄子　森　東
森　綾子　門馬　孝子　梁川　優子
保原自動車学校　遊佐　久男　吉澤　萬里子
柳内　敏男　矢部恵美子　吉田キクエ
堀江工業株式会社　吉田　嘉子
株式会社平中央自動車学校　吉成　毅
山口　信雄　南福島ひまわりクリニック
渡部　啓子　渡辺　康平　山口薬品株式会社
NPO法人ほっと悠　渡部　純夫　渡辺とくい
渡邉　一美　渡邊　素子　藁谷　和子
有限会社みどり薬局　代表取締役　松本　伸丈
文永山鎌秀院　医療法人慈繁会

16.　一般寄付者

阿部　倫子　横田多恵子　亀山　綾子　固山　博之
五十嵐千恵　今野　孝敏　佐藤　尚子　宍戸　光子
宍戸　俊子　菅野　光枝　菅野美恵子　生田目早苗
大森　洋亮　田邊　実　渡部信一郎　二階堂晃子
福島いのちの電話バザー会　福島県民共済生活協同組合

各種団体等からの補助金・助成金

福島県自殺対策緊急強化事業民間団体補助金
社会福祉法人福島県共同募金配分金

あなたもボランティアの仲間になりませんか

相談員になる
会員になる
講演会を聞く…などなど様々な参加方法があります。

福島いのちの電話にあなたの善意を…

いのちの電話の運営資金の多くは、民間の個人・団体（企業）の善意により支えられています。電話相談員の養成費・研修費・施設の賃料などの運営にも充てていますので、ぜひ、あなたも会員として福島いのちの電話を支えてください。

個人維持会員（年額一口）：１万円　５千円　３千円　２千円
団体維持会員（年額一口）：10万円　５万円　３万円　１万円
賛　助　会　員（任意の金額を随時にお寄せください。）

お振込のご案内　名義は社会福祉法人福島いのちの電話です。

郵便振替：02140-7-16968

他の金融機関をご利用の方は、事務局までお問合せください。
「社会福祉法人福島いのちの電話」の会費及び寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。
匿名希望の方は、お申し出くださるようお願いいたします。
※優遇措置を受けられる税金（所得税、個人県民税、一部の市町村は個人市町村民税も）

福島いのちの電話	理事長　丹　羽　真　一	TEL　024－536－0032 FAX　024－536－2840
喜　多　方　支　部	支部長　遠　藤　栄　子	喜多方市上江3646番地1 （喜多方市社会福祉協議会） TEL　0241－23－3231
南　相　馬　支　部	支部長　村　田　純　子	南相馬市原町区小川町322－1 （南相馬市社会福祉協議会） TEL　0244－24－3415
郡　山　支　部	支部長　柳　沼　純　子	郡山市朝日1丁目29－9 （郡山市社会福祉協議会） TEL　080－2843－0268

郵便振替　02140－7－16968　　名義：社会福祉法人福島いのちの電話

ひとりぼっちで悩まずに

年中無休　午前10時～午後10時
（毎月第3土曜日は午前10時から翌日午前10時まで）
ひとりぼっちで悩まずに　TEL **024-536-4343**（しみじみ）

フリーダイヤル　毎月10日 午前8時～翌朝8時
自殺予防いのちの電話　TEL **0120-783-556**（なやみ こころ）

〈相談時間〉午前10時～午後10時
ナビダイヤル　TEL **0570-783-556**（なやみ こころ）

〈福島いのちの電話では、掛けてこられた方の相談内容をよりよく聴くために、相談員の研修目的に限り電話を録音しています。〉

ホームページ
https://www.fukushima-inochi.com/email-consultation.html

社会福祉法人
福島いのちの電話
事務局／〒960-8691 福島中央郵便局私書箱15号
TEL.024-536-0032　FAX.024-536-2840
URL　http://www.fukushima-inochi.com/